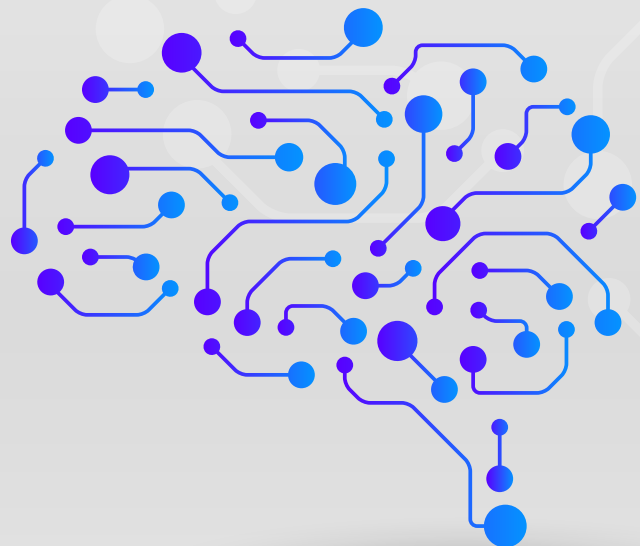


ChatGPT で劇的業務改善！

リスキリングで 生成AI人材の育成を

補助金 & 助成金の
W活用ができる絶好のチャンス



INDEX

01 生成 AI とは 従来の AI との違いは「創造性」	02
02 生成 AI がもたらすビジネス効果	05
03 急速に高まる、日本における企業の生成 AI 関心度	07
04 ChatGPT のセキュリティリスク	12
05 セキュリティが強固な企業向け ChatGPT 『AI Works』	13
06 動画コンテンツ+ワークショップで AI 人材を育成	21
07 「IT 導入補助金」と「人材開発支援助成金」を W 活用できる！	23
08 リスキリングの取り組み状況と AI（ChatGPT 等）の活用状況	25

はじめに

「ビジネスに AI を活用しなければならないと言われているものの、何をどうすればよいのかわからない」「ChatGPT はセキュリティに不安があり業務での使用を禁止した」「そもそも AI と生成 AI の違いが分からない」など、世の中で急速に脚光を浴びている AI を持て余していたり、脅威を感じたりしているビジネスパーソンは多いのではないのでしょうか。AI を使わなくてもこれまでどおりの方法で業務はできるでしょう。しかし、AI を使う企業と使わない企業の生産性には大きな差が生まれることは確かです。

また一方で、「リスクリングが騒がれているが、自社の社員にどんなスキルを身につけさせるべきかピンとこない」という方も多いのではないのでしょうか。

そんな方には迷わず、リスクリングで AI 人材を育成することをおすすめします。「企業の AI 活用」も「リスクリング」も国が総力をあげて推進しているものです。例えば、政府はリスクリング支援として 5 年間で 1 兆円を投じる方針を示しています。そのため、補助金や助成金を活用し、AI 人材の育成を実現する絶好のチャンスです。本資料では、生成 AI がもたらすビジネスインパクトから、安心安全に生成 AI を活用する方法をご紹介します。

生成AIとは | 従来のAIとの違いは「創造性」

生成 AI は「Generative AI (ジェネレーティブ AI)」とも呼ばれ、「コンテンツやモノについてデータから学習し、それを使用して**創造的かつ現実的な、まったく新しいアウトプットを生み出す機械学習手法**」と定義されています。

従来のAIとの違い

従来の AI と生成 AI の違いは、「オリジナルコンテンツ創造の可否」にあります。

従来の AI は、大量の情報の整理・分類方法を学習し、予測をさせることが目的であり、あらかじめ決められた行為の自動化が主な役割でした。

一方、生成 AI は、情報の特定や予測ではなく、**創造することを目的**に、データのパターンや関係を学習します。ディープラーニングによってAI自身が学習を重ねることで、人間が与えていない情報やデータもインプットし、新しいコンテンツを生成します。つまり、これまで**人間にしかできないとされていた「0 から 1 を生み出す」クリエイティブな行為も実現**できるようになったのです。

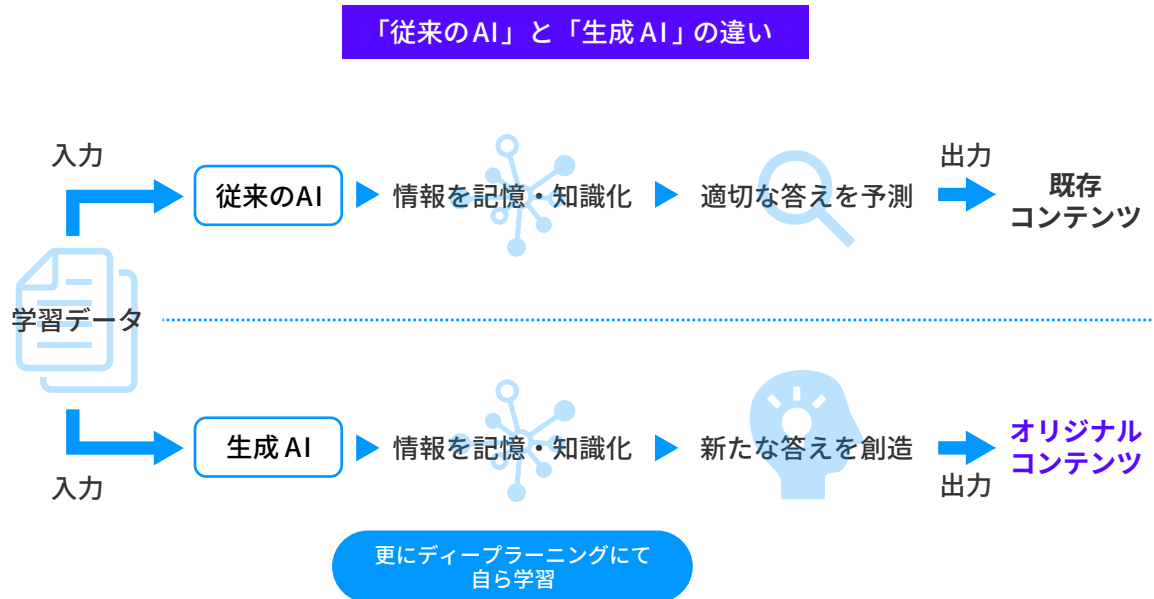
図表 従来のAIと生成AIの違い

	従来のAI	生成AI
学習の視点	情報の整理・分類・検索	パターンや関係の学習
出力の目的	特定や予測	創造
ビジネスインパクト	決められた行為の自動化	新しいコンテンツの生成
学習データ	具体的なデータセット	構造化されていないデータセット

出所) 野村総合研究所

Chapter 01

生成 AI とは | 従来の AI との違いは「創造性」



※株式会社ブレインパッド「生成 AI（ジェネレーティブ AI）とは？ ChatGPT との違いや仕組み・種類・活用事例」
https://www.brainpad.co.jp/doors/contents/about_generative_ai/ を参考に当社が独自に作成

※厳密に言えばオリジナルコンテンツは従来型の AI モデルでも作ることは可能です。生成 AI とは大規模言語モデルを用いて作られた AI であり、単一タスクでなくさまざまなタスクに個別学習不要で対応できるのが最大の功績と言われていますが、わかりやすさを優先し上記の表現としています。

Chapter 01

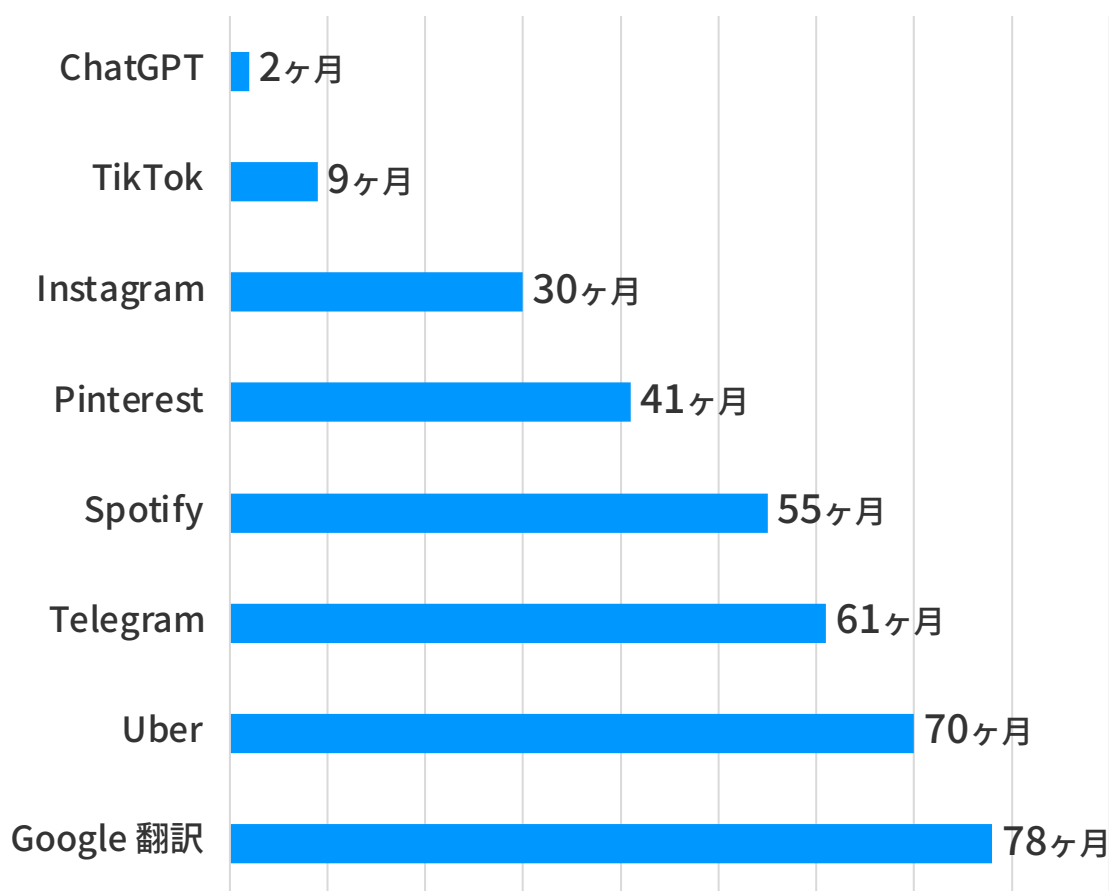
生成 AI とは | 従来の AI との違いは「創造性」

生成 AI のなかでも ChatGPT（GPT-4）は圧倒的な精度

また、生成 AI が注目されるようになった理由のひとつには「精度」の向上もあります。質問に対する回答の精度、出力される文章表現の自然さ、入力した条件にあった画像など、出力されるものがビジネスなどで使えるレベルまで向上しました。なかでも、ChatGPT（GPT-4）は圧倒的な精度です。

OpenAI が 2022 年 11 月に公開した ChatGPT は、リリースからわずか 5 日でユーザー数が 100 万人を超え、2 カ月で世界のユーザー数が 1 億人に達したことで話題になりました。TikTok がアクティブユーザー数 1 億人に到達するのに要した時間は 9 カ月、Instagram は 2 年半であることを考えると驚異的な速さです。操作がシンプルで多言語に対応できることもあり、多くの人に使用され、これまでに IT リテラシーの高い一部の人が使うものであった AI を一気に身近なものにしました。

アクティブユーザー 1 億人を達成するまでにかった月数

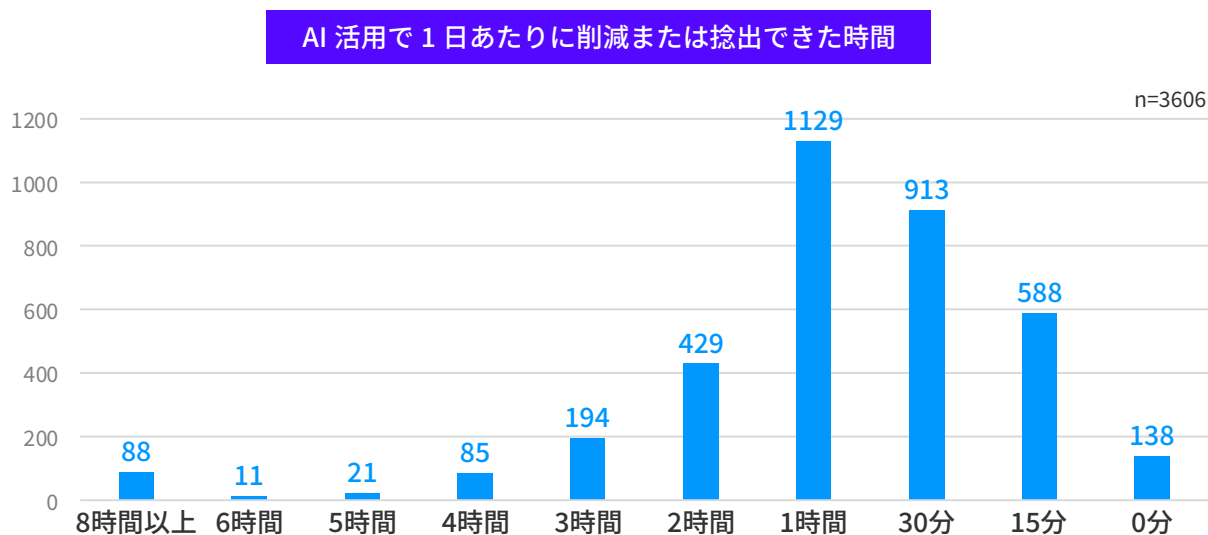


※https://finance.yahoo.com/news/chatgpt-on-track-to-surpass-100-million-users-faster-than-tiktok-or-instagram-ubs-214423357.html?ncid=twitter_yfsocialtw_l1gbd0noiom を参考に当社が独自に作成

生成 AI がもたらすビジネス効果

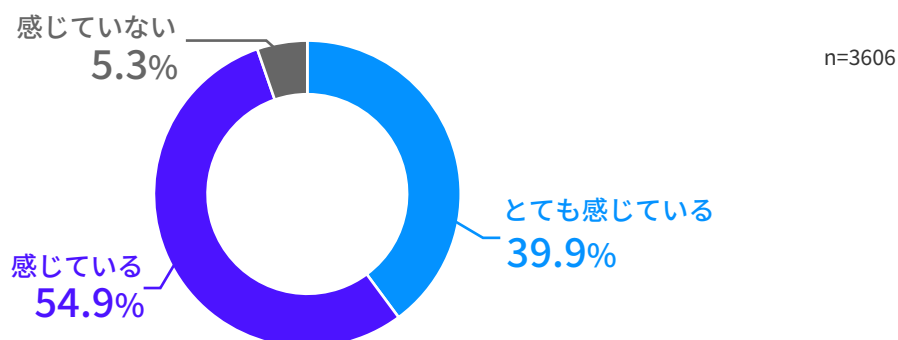
GMO インターネットグループは、グループを挙げて**生成 AI の活用を進めた結果、約 9 万 6,000 時間、600 人月に相当する業務時間を創出した**とレポートしています。

生成 AI を業務に活用していると回答したパートナー（正社員、派遣社員、アルバイト）の 96% が生成 AI の活用により 1 日 15 分以上の業務時間を創出したと回答し、1 日あたり 1 時間を創出したパートナーが 31% と最も多い結果となりました。



さらに、9 割以上が「生成 AI 活用で仕事のアウトプットの質向上につながっている」と感じていると答えています。

AI 活用で仕事のアウトプットの質は向上につながったと感じるか



※【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】 <https://www.gmo.jp/news/article/8680/> を参考に当社が独自に作成

Chapter 02

生成 AI がもたらすビジネス効果

生成 AI でできるビジネス業務・活用事例

実際、生成 AI はどのようなビジネスシーンで活用できるのでしょうか？上記 GMO の調査では、「AI 活用により業務時間創出につながった例」として以下が挙げられています。（カッコ内は創出時間）

- メール文面の土台の作成など（10 時間 / 月）
- 英文メールの添削、ニュアンス確認など（30 分 / 通）
- トークスクリプトのアイデアだしや、
アイデアをもとにしたアウトラインの作成（10 時間 / 月）
- コンテンツマーケティング用の記事の作成や誤字脱字チェックなど（2 時間 / 記事）
- ランディングページのペルソナ設定や構成案の作成（2 時間 / 件）
- 電話窓口の重複入電数、ユニークユーザー数のカウント（25 分 / 回）
- 社内アンケートの自由記述欄の定性分析や要約（3 時間 / 回）
- 生成 AI に仕様を伝えてコーディング、またリファクタリングの実施（それぞれ 1 時間 / 月）

GMO だけでなく、多くの企業が生成 AI を業務に活用し始めています。例えば、ソフトバンク代表の孫さん自ら、「AI を使用し、600 件もの特許アイデアを考案。壁打ちやブレストにも AI を使い、特許申請まで行なった」と話しています。また、セブン - イレブン・ジャパンは 2024 年春から商品企画に生成 AI（人工知能）を導入し、企画にかかる期間を最大で 10 分の 1 に短縮すると発表しました。

さらに、生成 AI という概念のない頃から AI 研究・開発の専門組織「AI Lab」をつくり、広告事業を中心にいち早く AI 活用を進めてきたサイバーエージェントでは、**生成 AI リスキリングを 6,200 人に実施**。約 40%のエンジニアにおけるコーディング業務の 2 割以上削減を実現しています。また、2023 年に「ChatGPT」を活用した「ChatGPT オペレーション変革室」を設立。広告オペレーションにおける作業時間を大幅に削減することを目的として「ChatGPT」を適切かつセキュアに活用することで、さらなる広告オペレーションの効率化に取り組むと発表しています。

急速に高まる、 日本における企業の生成 AI 関心度

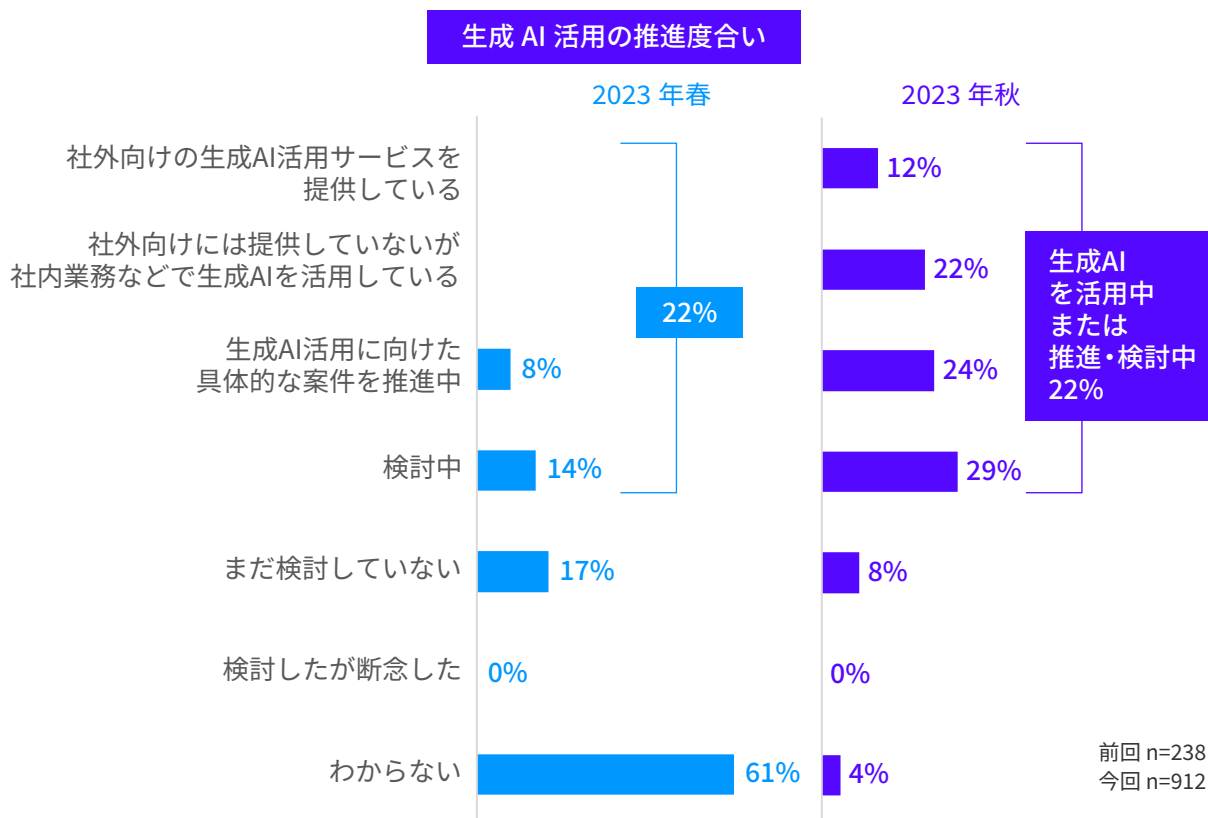
生成 AI に対する国内企業の関心度は急速に高まっています。PwC の調査「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」(※) によれば、半年前の前回調査から生成 AI に対する認知度は大幅に高まり、生成 AI を「全く知らない」と回答したのは全体のわずか 4%にとどまりました。

※「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」PwC コンサルティング合同会社

https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2023_autumn.html

約 9 割が生成 AI を活用中、または推進・検討中

さらに、生成 AI 活用の推進度合いに関しても、「既に生成 AI の社内利用あるいは社外活用（その検討）を進めている」と回答した割合は、半年で 22%から 87%に増加、生成 AI の本格導入時期として 58%が今後 1 年以内を予定しており、生成 AI 活用に向けた具体的な取り組みが非常に進んでいることがわかります。

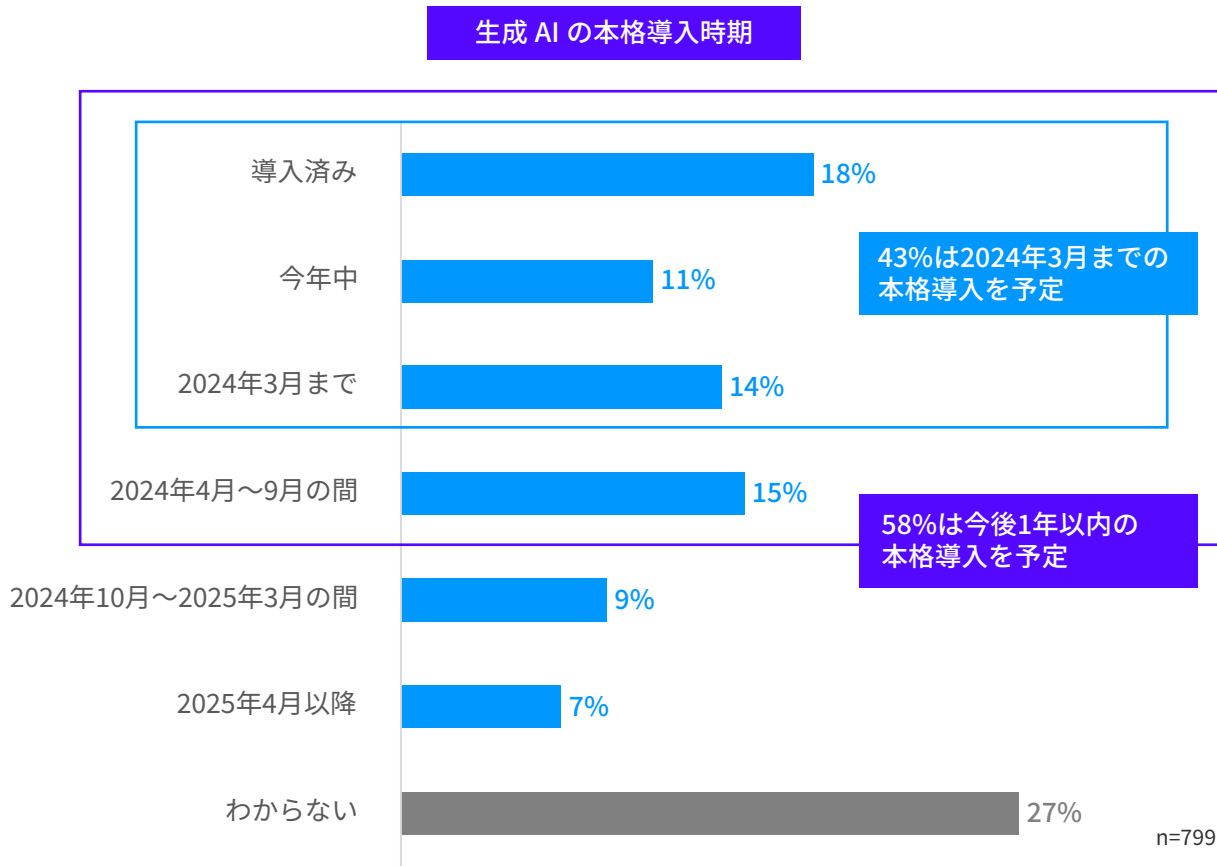


※ 2023 年春の選択肢「予算化済み」を「生成 AI 活用に向けた具体的な案件を推進中」に統合し再集計、「社外向けの生成 AI 活用サービスを提供している」と「社外向けには提供していないが、社内業務等で生成 AI を活用している」の選択肢がなかったため、無表記

※ 2023 年春の調査結果から今回調査対象と同様の属性に絞って再集計

Chapter 03

急速に高まる、日本における企業の生成 AI 関心度



「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」 PwC
https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2023_autumn.html
を参考に当社が独自に作成

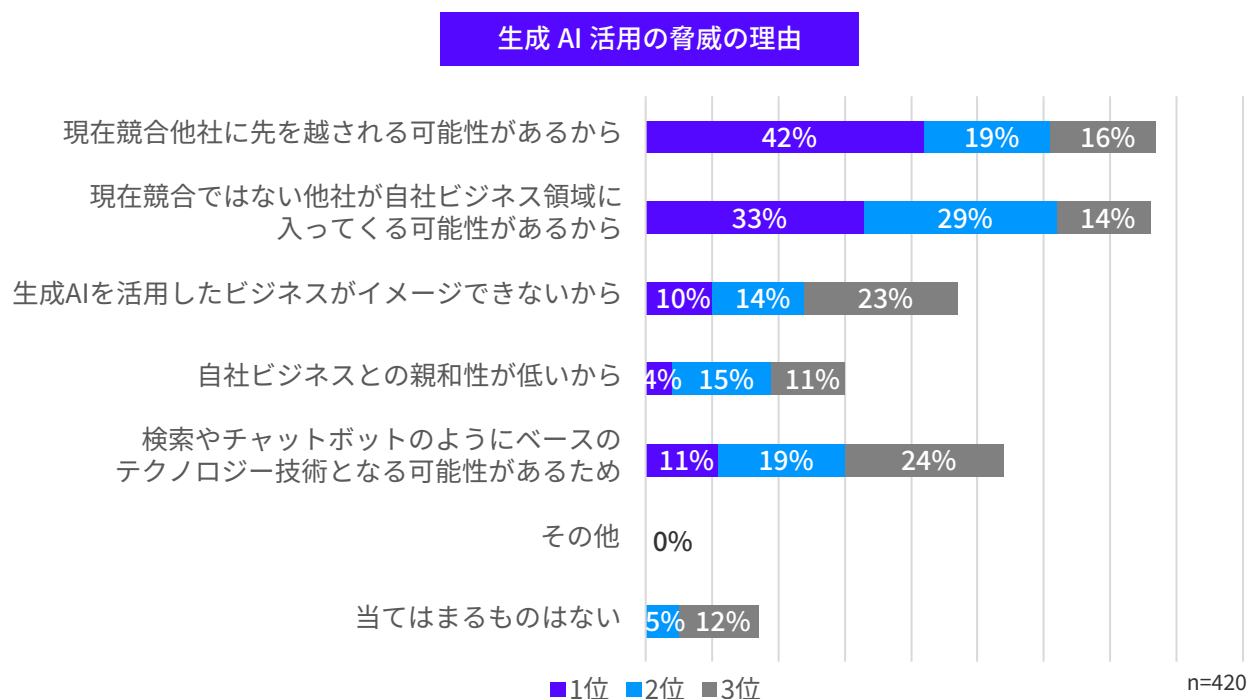
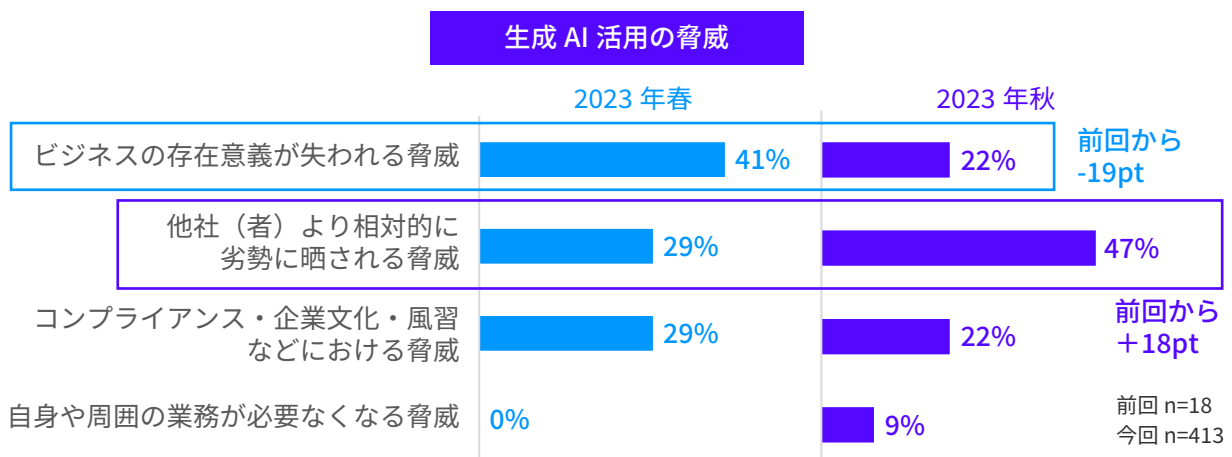
Chapter 03

急速に高まる、日本における企業の生成 AI 関心度

劣勢に晒される脅威。競合他社に負けないために AI を活用

急速に導入の検討が進んだ背景には、「競合他社に先を越される可能性」や「新規競合の参入の可能性など、生成 AI に対して「他社（者）より相対的に劣勢に晒される脅威」を感じていることがあるようです。

多くの企業において生成 AI の自社ビジネスや業務における活用イメージが具体的になったことで、競合他社からの脅威もこれまで以上に高い解像度で実感することができ、**既存ビジネスの領域で「他社に負けない」ために生成 AI 活用を検討している**と考えられます。



「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」 PwC

https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2023_autumn.html

を参考に当社が独自に作成

Chapter 03

急速に高まる、日本における企業の生成 AI 関心度

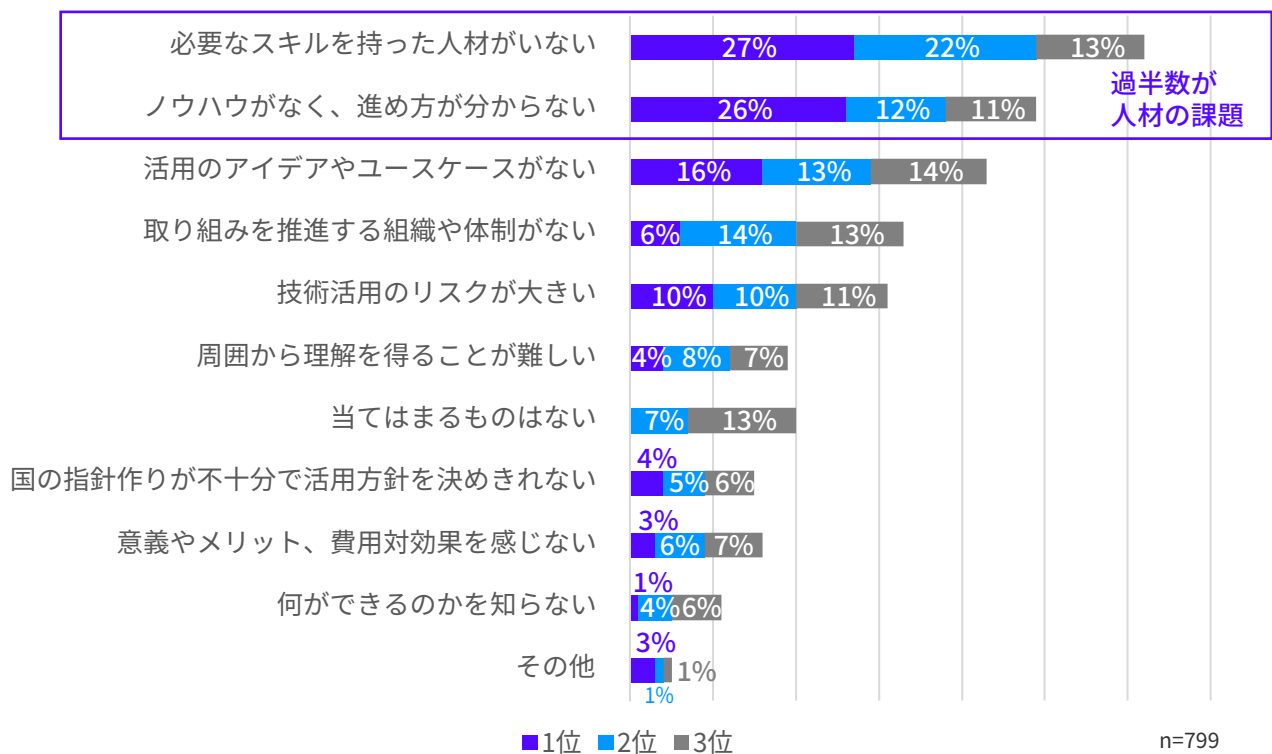
リスキングや外部人材活用の重要性が高まる

生成 AI 活用を検討・推進中の回答者の過半数が、生成 AI 活用で直面する（した）課題として「必要なスキルを有する人材の不足」「ノウハウがなく進め方が分からない」と回答しています。これらの課題は「**自社だけでは解決が難しい課題**」としても最上位に挙がっており、生成 AI 活用の推進に向けては、**これまで以上に社内人材のリスキングや外部人材活用の重要性が高まっている**と考えられます。

また、生成 AI 活用に必要なスキルについては、これまで重視されていた「コミュニケーションスキル」「ユースケース企画スキル」から、「AI 技術全般に関する理解」に移行しました。

生成 AI の普及・民主化が進み、データサイエンティスト等の専門家だけでなく幅広い層が生成 AI に触れることができるようになった一方で、ハルシネーションリスク（生成 AI が学習したデータから、流暢だが事実と全く異なるコンテンツを生成してしまうリスク）などを背景として、**ユーザー側にはこれまで以上に AI リテラシーが求められるようになった**と考えられます。

生成 AI 活用において直面した / している課題



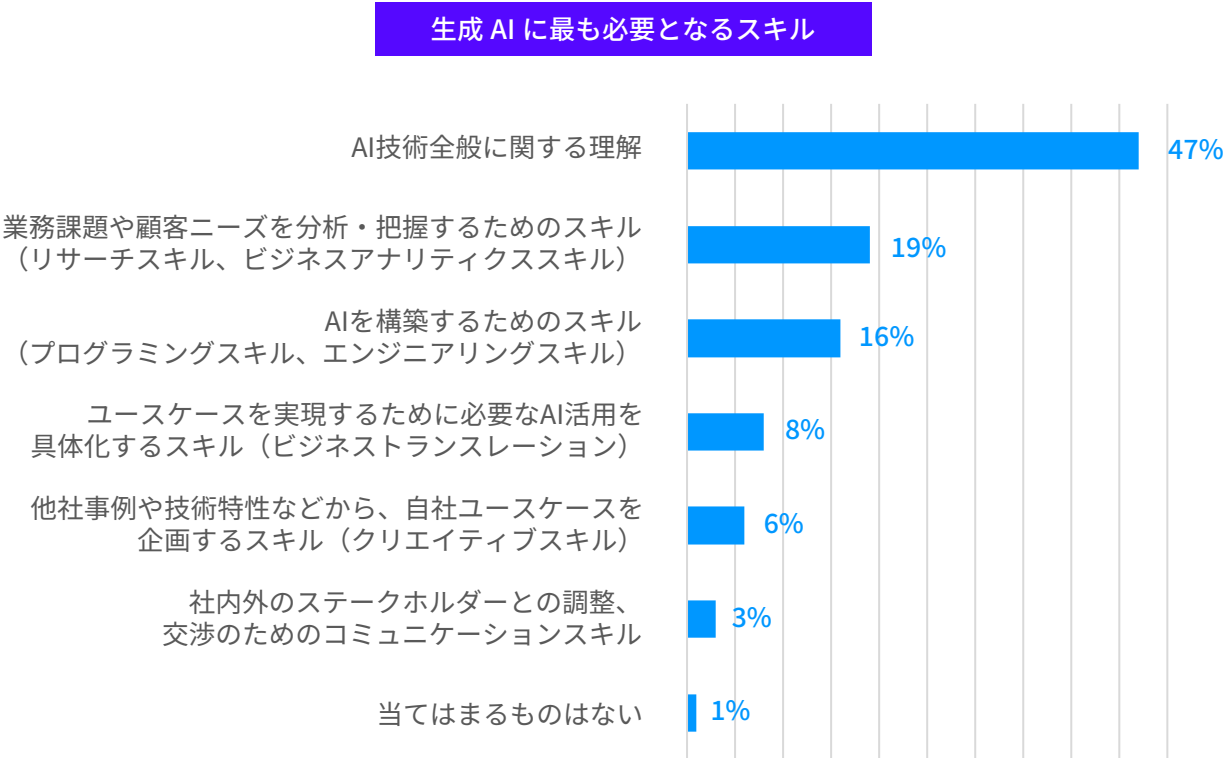
「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」 PwC

https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2023_autumn.html

を参考に当社が独自に作成

Chapter 03

急速に高まる、日本における企業の生成 AI 関心度



n=912

「生成 AI に関する実態調査 2023 秋」 PwC
https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2023_autumn.html
を参考に当社が独自に作成

ChatGPT のセキュリティリスク

生成 AI を企業で活用するうえで、どのようなセキュリティリスクがあるのか確認しておきましょう。

例えば、ChatGPT はユーザーから入力された情報を蓄積・学習しているため、仮に企業の機密情報や個人情報を入力した場合、その情報はデータベースに記録されてしまいます。つまり、**ChatGPT に機密情報を入力することで、その情報が第三者に流出する可能性があります。**

逆に ChatGPT が出力した情報を使用する立場から見れば、ChatGPT は著作権違反の可能性を正確に考慮できないため、意図せずに著作権違反の情報を出力するケースがあり、その情報をそのまま使用するとトラブルのリスクが伴います。

また、ChatGPT が与える情報が必ずしも正しいという補償はありません。模擬司法試験で受験者の上位 10% 程度のスコアを叩き出した GPT-4 でさえも、間違った情報を出力する場合があります。誤情報をそのまま発信してしまえば、企業のブランド力や信用低下に繋がるでしょう。

ChatGPT をはじめ生成 AI をビジネスで使用する際は、このようなリスクも踏まえて活用できる人材を育てる必要があります。

セキュリティが強固な 企業向け ChatGPT 『AI Works』

今後、企業が生成 AI の活用を推進していくにあたり、2 点の課題に取り組む必要があります。

- ☐ セキュリティリスクへの十分な配慮
- ☐ AI 人材の育成（リスキリング）

そこで当社は、ChatGPT を企業が活用することを目的として、セキュリティを強化し、機能をより業務に必要な性能に合わせた 『AI Works』 を独自開発いたしました。

5. 法人リスキリング 企業向け ChatGPT 『AI Works』


AI Worksの概要

© DigiRise, Inc. All Rights Reserved.

セキュリティが強固で便利機能が豊富な独自 AI サービス



AI Works

特徴①

企業でも活用できる安全性

特徴②

ChatGPT に無い豊富な独自機能

特徴③

社内資料を長期学習可能

23

『AI Works』で実現可能な業務改善

ChatGPT は「プロンプト」とよばれる指示書に従って必要な事項を記入すると、数十秒～数分でこちらのオーダーに答える文章を作成してくれます。プロンプトとは日本語で「呪文」という意味もありますが、まさに魔法を使ったように文章がアウトプットされてきます。『AI Works』にはビジネスで使える数百のプロンプトが用意されています。『AI Works』のできる業務活用事例の一部をご紹介します。

Chapter 05

セキュリティが強い企業向け ChatGPT 『AI Works』

①商談用資料の作成 | 1分で営業先の企業情報をまとめる

営業職は、資料作成など営業以外の業務に約 6〜7 割の時間を割いていると言われていたのですが、AI を活用することで顧客と対話をしたり営業戦略を考えたり、コア業務に使える時間を増やすことができます。『AI Works』は、商談前の企業分析だけでなく、自社商材が先方に刺さりそうな具体的な要素、さらにお互いの会社情報から読み取れるアイスブレイクの良いネタまでを数分で営業シートにまとめてくれます。

プロンプト



User name

あなたはプロのセールスパーソン兼アナリティストです。

以下の参考サイトと事前情報を読み込んで、初回で即決契約をきめられるような商談前の営業シートを作成してください。

【営業先企業の参考サイト】

{URL}

【事前情報】

自社サイト

{URL}

提案商材

{SNS 運用}

チャンネル

{ホワイトペーパー}

課題

{リード獲得に困っている}

また、営業シートの項目はこちらです

【営業シート】

以下の営業先企業の情報をエクセルのような表形式に詳細にまとめて出力してください

会社名

代表者名

設立年月

事業内容

課題感

自社商材が先方に刺さりそうな具体的な要素

お互いの会社情報から読み取れる、アイスブレイクの良いネタ

Chapter 05

セキュリティが強い企業向け ChatGPT 『AI Works』

②文章作成：営業議事録の高速作成

『AI Works』を使えば、議事録も 1 分で作成できます。ツールを使用して文字起こしをした Web 会議の内容をもとに、議事録のフォーマットに書き直すことが可能です。オリジナルの ChatGPT には約 5000 字の文字制限がありますが、『AI Works』を使えば最大 10 万文字まで入力することが可能です。

プロンプト



User name

あなたは、プロのライターです。
これから社内海外の議事録を丁寧にわかりやすく作成します。
以下の {発言メモ} をもとに、{目的}、{条件} を理解した上で、{出力形式} のフォーマットにあわせて議事録を作成してください。

{条件}

- ・改行と表形式も意識して視認性も高く
- ・発言内容をベースにわかりやすく
- ・発言以外の事を架空で想像しない
- ・重要情報は漏らさず丁寧に

{目的}

- ・社内会議の記録を全員で共有し、いつでも会議の振り返りができるようにする

{出力形式}

サマリー

-
-

ネクストアクション

-
-

#ToDo (人物ごとにまとめる)

-
-

{発言メモ}

※別のアプリで書き起こした議事録を貼り付ける

Chapter 05

セキュリティが強い企業向け ChatGPT 『AI Works』

③文章作成：メールの高速作成

メールの返信は日々発生する業務ですが、日本語のマナーに沿って失礼がなく相手に好印象を与える文面を考えるために意外と時間を使っています。

以下の『AI Works』のプロンプト例は、体調不良によりアポイントをキャンセルしたいという顧客からのメールへの返信です。「承諾／体調気遣う／再度日程調整」といった趣旨を入力するだけで、細部にまで配慮された文面を作成してくれます。

丁寧な文面を作成することはもちろん、「仲のよい顧客なのでカジュアルめに」といったニュアンスの指示まで依頼することが可能です。

プロンプト



User name

※体調不良によりアポイントをキャンセルしたいという顧客からのメールへの返信

指示書

{条件} を満たして、{相手からの返信} と {送付情報} を参考にしながらメールの本文を書いてください。続いて入力されるテキストを {主旨} と解釈してください。

{条件}

- ・ビジネス用の丁寧な文体
- ・相手に失礼がなく、気を悪くしないように
- ・350 文字以内

{相手からの返信}

株式会社●●
●●様

お世話になります。

~~~~

~~~~

{主旨}

- ・承諾
- ・体調気遣う
- ・再度日程調整

{送付情報}

送付元：株式会社●●

送付先：株式会社●●

Chapter 05

セキュリティが強い企業向け ChatGPT 『AI Works』

④文章の添削：部下からや自身の文章チェックが一瞬で

ビジネスシーンで誤字は信頼を失う要因となります。そのため、自分が書いた文章だけでなく、部下の書いた文章の校正をする機会は多くあるでしょう。その校正作業も『AI Works』に任せれば、人が確認するより正確で迅速なアプトプットが実現されます。

プロンプト



User name

指示文：
あなたは、プロのライターです。
以下の条件をもとに元の文章の誤字・脱字、語尾の不一致のみを修正してください。

条件：
・対象はビジネスパーソン
・まずは修正した文章を全文出してください
・その後、修正した箇所を修正前と後で表形式で教えてください

元の文章：
～～～

⑤契約書のレビュー

『AI Works』はファイル解析も可能です。例えば、契約書をアップすれば、サマリーや不利な条件を瞬時に回答してくれるため、これまで弁護士に依頼していたレビューも、まずは自分の担当者ベースで一度確認することができます。

1. 契約書をアップロードする

代印契約書 （以下「本契約書」といいます。）を「株式会社A」と「株式会社B」との間で締結されたものとします。 第1条（目的） 本契約書の目的は、株式会社Aが株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供することにある。 第2条（業務内容） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第3条（報酬） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の報酬を支払う。 第4条（権利金） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の権利金を支払う。 第5条（保証金） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の保証金を支払う。 第6条（責任） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の責任を負う。 第7条（不可抗力） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の不可抗力について定める。 第8条（紛争の解決） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の紛争の解決について定める。 第9条（その他の事項） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載のその他の事項について定める。	第10条（契約の締結） 本契約書は、株式会社Aと株式会社Bの間で締結されたものとします。 第11条（契約の履行） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第12条（契約の終了） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第13条（契約の更新） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第14条（契約の解除） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第15条（契約の譲渡） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第16条（契約の承継） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第17条（契約の廃止） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第18条（契約の廃止） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第19条（契約の廃止） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。 第20条（契約の廃止） （1）本契約書に基づき、株式会社Aは、株式会社Bに対して、本契約書に記載の業務を提供する。
---	---

Chapter 05

セキュリティが強い企業向け ChatGPT 『AI Works』

2. プロンプトを入力する



User name

あなたはプロの弁護士です。

アップロードした資料の契約書を読み込んでください。

その後、以下の情報を簡潔にまとめて箇条書きで日本語で回答してください。

- ・ 契約書のサマリー
- ・ 弊社側にとって不利な条件
- ・ 弊社名：{ 株式会社デジライズ }
- ・ 不利な条件への改善案

3. サマリーや不利な条件を瞬時に回答してくれる

- ・ 契約書のサマリー

1. 契約の解除条件として、代表者や役員が刑事罰を受ける、役員や株主間の紛争、株主構成や経営主体の変更、財務状態の悪化、信頼関係の毀損この質問に対する答えを提供するためには、提供されたテキストの全体的な内容や文脈が必要です。提供されたテキストは契約書の一部であり、全体的な内容や文脈が不足しています。従って、契約書のサマリー、弊社側にとって不利な条件、および不利な条件への改善案を提案することはできません。

- ・ 弊社側にとって不利な条件

第2条（紹介の定義）の（4）において、甲は乙の事前の書面による承諾を得ることなく、本契約に基づく紹介を第三社者に委託することはできないとされています。これは、甲が他の代理店を通じて顧客を紹介することを制限しています。

Chapter 05

セキュリティが強固な企業向け ChatGPT 『AI Works』

『AI Works』のセキュリティ体制

マイクロソフトは以下の責任を定義・公開しています。その責任を有しているため、AI を介して組織の情報が漏洩することではなく、漏洩した場合の責任をマイクロソフトは負うことになります。

① 重要

プロンプト（入力）と入力候補（出力）、埋め込み、トレーニングデータ：

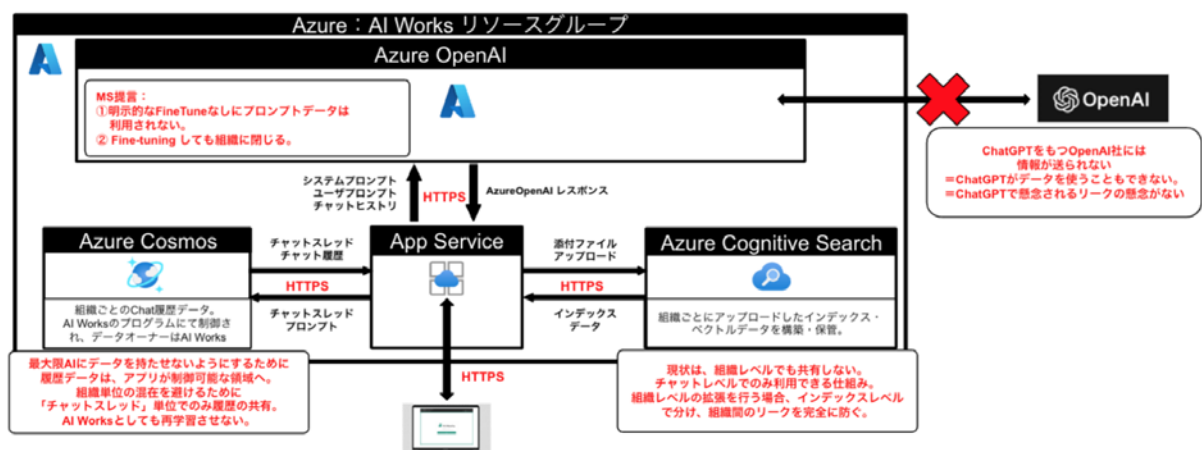
- 他のお客様はご利用いただけません。
- OpenAI では使用できません。
- OpenAI モデルの改善には使用されません。
- は、マイクロソフトまたは第三者の製品またはサービスの改善には使用されません。
- は、リソースで使用するために、Azure OpenAI モデルを自動的に改善するために使用されません（トレーニングデータ）を使用してモデルを明示的に微調整しない限り、モデルはステートレスです）。
- 微調整された Azure OpenAI モデルは、ユーザー専用で使用できます。

Azure OpenAI Service は Microsoft によって完全に制御されます。Microsoft は Microsoft の Azure 環境で OpenAI モデルをホストしており、本サービスは OpenAI が運営するサービス（ChatGPT や OpenAI など）と相互作用しません。

より詳しい説明：

Azure OpenAI Service のデータ、プライバシー、セキュリティ - Azure AI services |Microsoft Learn

特徴①：企業でも利用可能な安心のセキュリティ体制



セキュリティに関してよくある質問

Q. AzureOpenAI 以外の場所から情報が漏れる可能性はないか？

極めて低い。すべて Azure 内部で完結しており、リソースキーではなく認証トークンのみで成立させている。リソースキーがハッキングされることはない。つまり外部から、組織のデータを見ることは不可能。

Q. 公衆回線を通過するのか？

する。しかし、すべての通信は HTTPS であり、これを否定する場合、すべての Web サイトにおけるショッピングを含む通信が否定される。

Q. より強固に公衆回線を通過させないようにできないか？

一部を除き出来る。お客様ごとにカスタマイズが可能。

すべてを、PrivateLink と呼ばれる回線に変更することに加え、お客様専用の AI Works 環境を構築し、独自の環境を構築することで、万が一不具合などが発生したとしても、リソースが独立する。さらに、AI Works を利用する端末自体を、Azure 上に配置することで、公衆回線を通過しないでチャットをする環境を構築することも個別リクエストにより可能。

ChatGPT を使いこなすには、「プロンプト」が重要ですが、上記でご紹介した以外にも、『AI Works』は数百のプロンプトが用意されており、ビジネスで実現可能な機能は ChatGPT をはるかに上回ります。

AI Works の主要機能と ChatGPT との比較

No	項目	AI Works	ChatGPT
1	画像の生成 (DALL-E3)	○	○
2	単発の資料学習	○	○
3	プロンプトのテンプレート	○	×
4	読み込み可能文字数	○ 128K(約 10 万文字)	× 8K(約 5,000 文字)
5	資料の長期保存	○	×
6	安全なセキュリティ	○ サーバーは日本	× サーバーは海外
7	専任エンジニアのサポート	○	×

動画コンテンツ＋ワークショップで AI 人材を育成

『AI Works』は直感的に操作できるツールではありますが、「AI 人材」を育てるには、操作だけでなく AI の概要について学ぶ必要があります。そこで、AI 人材の育成までをサポートするのが、『法人リスキリング』です。

PwC の調査でも明らかになったように、AI が民主化した今、専門的なスキルよりまずは、「AI 技術全般に関する理解」が求められています。『法人リスキリング』では、まず動画で AI に関する基礎知識を学びます。

2. 法人リスキリング「動画研修」

DigiRise
© DigiRise, Inc. All Rights Reserved.

動画研修の特徴

AIの基礎知識～生成AIの活用方法まで業務に生きる学習内容

1 AIの基礎学習

1.1 AIの仕組み

1.2 AIとロボットの違い

1.3 AIの歴史（第1次-3次ブーム）

1.4 生成AIとは？

2 ChatGPTについて

2.1 ChatGPTの概要

2.2 GPT-1

2.3 GPT-2

2.4 GPT-3

2.5 GPT-3.5

2.6 GPT-4

3 ChatGPTのプロンプト

3.1 プロンプトの基礎

3.2 プロンプトの応用編

3.3 プロンプトテンプレート

4 ChatGPT活用法（基礎編）

4.1 文章生成（メール、ブログ）

4.2 アイディア出し

4.3 タスクの抽出

4.4 書類のテンプレート作成

5 ChatGPT活用法（応用編）

5.1 プラグインの使い方

5.2 Code Interpreterの使い方

5.3 Custom Instructionの使い方

6 各種AIツールの使い方

6.1 文章生成

6.2 画像生成

6.3 動画生成

6.4 会議議事録生成

6.5 チャットボット生成

6.6 ウェブサイト生成

かつ、LMS（動画学習システム）でいつでもどこでも受講可能

44

そして、ワークショップで実践的なトレーニングを行います。ワークショップは1対Nオンライン型、学習した内容をライブ形式でアウトプットするトレーニングのため、確実にスキルが身につきます。

21

Chapter 06

動画コンテンツ+ワークショップで AI 人材を育成

ワークショップの講師を務めるのは、『AI Works』を開発した株式会社デジライズの代表茶園（チャエン）です。AI 専門家としてメディアにも複数出演しているため、AI 初心者でもわかりやすい解説には定評があります。

3. 法人リスキリング「ワークショップ」

ワークショップの詳細

講師の解説と実践ワークでAI活用を学ぶ

- ・各回の事前学習内容に基づき、AIスペシャリスト講師が生ライブで解説
- ・参加者同士のAI活用実践ワークショップ

トレーニング内容

- ① ChatGPTの使い方
- ② プロンプトの基礎理解
- ③ 仕事で使えるプロンプトの実践
- ④ ChatGPT活用の応用編

※隔週に1回開催（計4回）
※初回90分/2回目90分/3回目90分/最終回90分
※トレーニングには、1社複数名でご参加頂きます。
最低参加人数：4名

AI講師：チャエン



52

会社概要・代表紹介

代表：チャエン自己紹介 - テレビ出演 -

多方面でもAI専門家としてのテレビ出演



11

「IT 導入補助金」と 「人材開発支援助成金」を W 活用できる！

AI 人材の育成、流動性の高い社会で活躍できる人材の育成（リスキリング）は、国が力を入れて取り組んでいることでもあります。そのため、AI 人材の育成に関して政府は補助金や助成金で企業をバックアップしています。

『AI Works』と『法人リスキリング』に関しても、「IT 導入補助金」と「人材開発支援助成金」をダブル活用することで非常にお得に導入可能です。

例えば、『法人リスキリング』の費用は1人あたり40万円ですが、中小企業であれば30万円の助成金（初期4名まで）を活用することによって、企業の実質負担額はそれぞれ10万円、16万円になります。

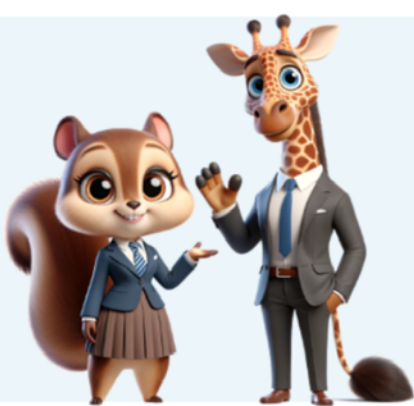
7. IT導入補助金と人材開発支援助成金のW活用

DigiRise

AI リスキリング1人あたりの金額（初期4名までの費用）

© DigiRise, Inc. All Rights Reserved.

1人あたり10万円（中小企業様）



定価 40 万円(1人)

↓

助成金30万円(助成率：75%)

実質負担10万円

AIリスキリング期間は約4ヶ月

75

『AI Works』の導入に関しても、IT 補助金を使用することで、140 万円の費用を 70 万円に抑えることが可能です。

23

Chapter 07

「IT 導入補助金」と「人材開発支援助成金」を W 活用できる！

＜「IT 導入補助金」と「人材開発支援助成金」を W 活用した場合の実質負担額＞

※中小企業、4 名受講の場合



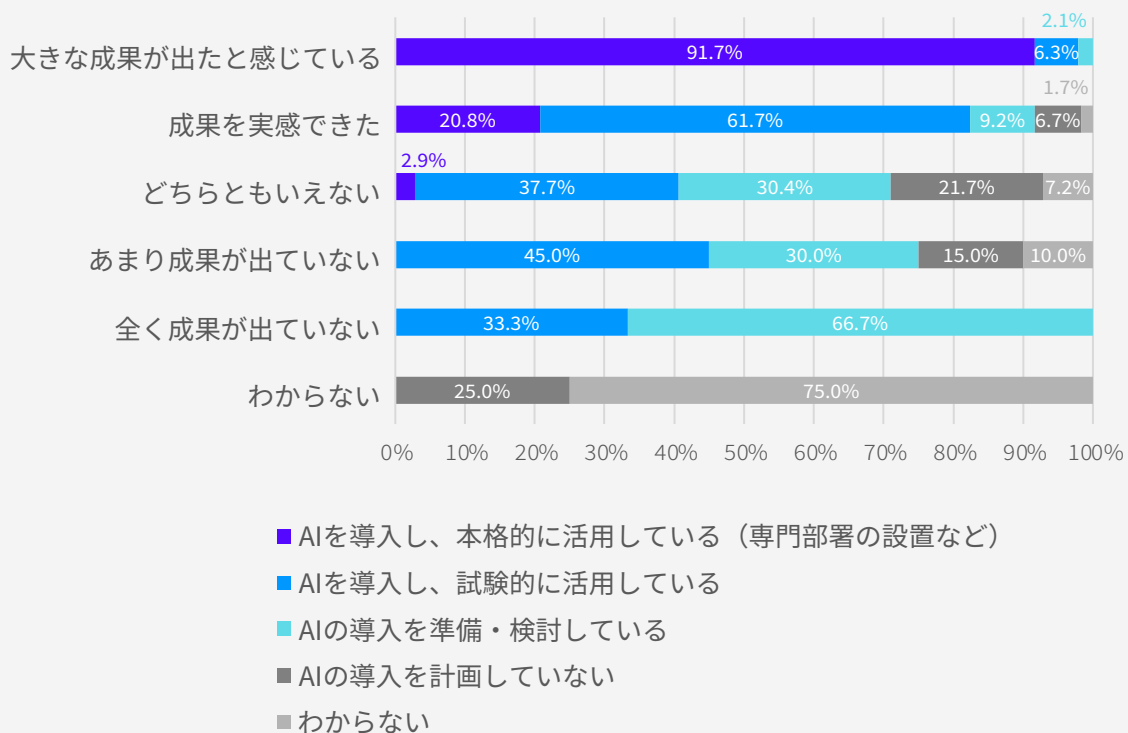
リスキリングの取り組み状況とAI（ChatGPT 等）の活用状況

パーソル研究所の調査によれば、**リスキリングで大きな成果が出たと実感している企業は、特にChatGPTの活用度が非常に高い**ことも分かっています。

リスキリングで大きな成果が出たと感じている企業のうち、専門部署の設置などAIを本格的に活用している企業は91.7%、AIを試験的に活用している企業は6.3%です。この2つを合わせて98.0%のAI活用企業が、リスキリングの取り組みで大きな成果を得られたと実感していると読み取れます。

Q

あなたがメインで所属する企業では、どの程度AI（ChatGPT 等）を業務で活用し、また企業としてのリスキリングの取り組みでどの程度成果が出ていると感じていますか？



※「ChatGPT 活用状況」Reskilling Camp リスキリング調査レポート特別編_2023年5月版／PERSOL
<https://www.persol-group.co.jp/service/business/article/12148/>
を参考に当社で独自に作成

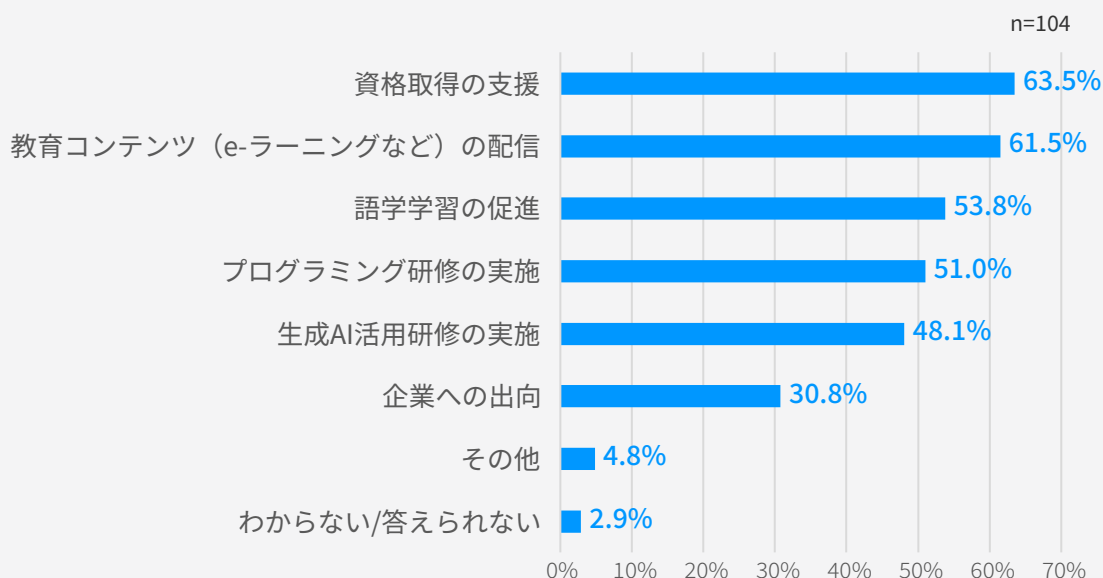
Chapter 08

リスキリングの取り組み状況と AI（ChatGPT 等）の活用状況

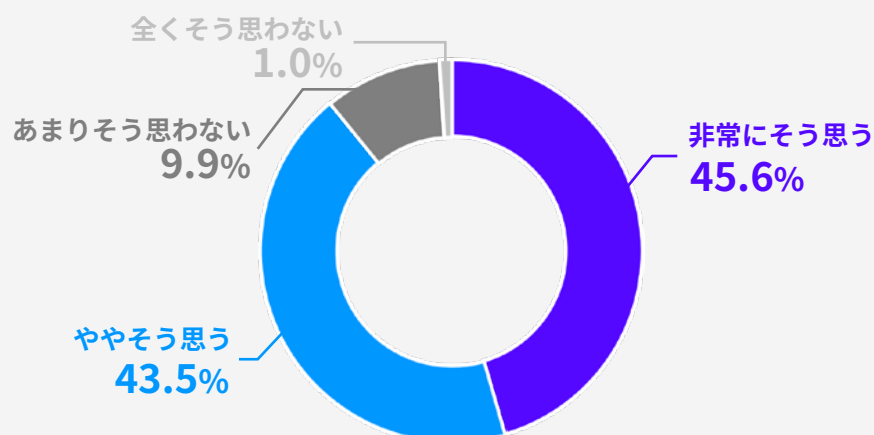
今後、企業が求める人材要件には「エクセルが使用できる」と同等に「AI（ChatGPT など）が使用できる」という項目が当たり前に入ってくるでしょう。

当社が大企業の DX 推進・経営企画・経営管理・人事でリスキリング企画業務に携わっている方に行った調査では、約半数がすでにリスキリングで生成 AI 活用研修の実施をしており、未実施のうち約 9 割が生成 AI のリスキリングを行いたいと答えています。

Q お勤め先のリスキリング施策で行っていることを教えてください。（複数回答）



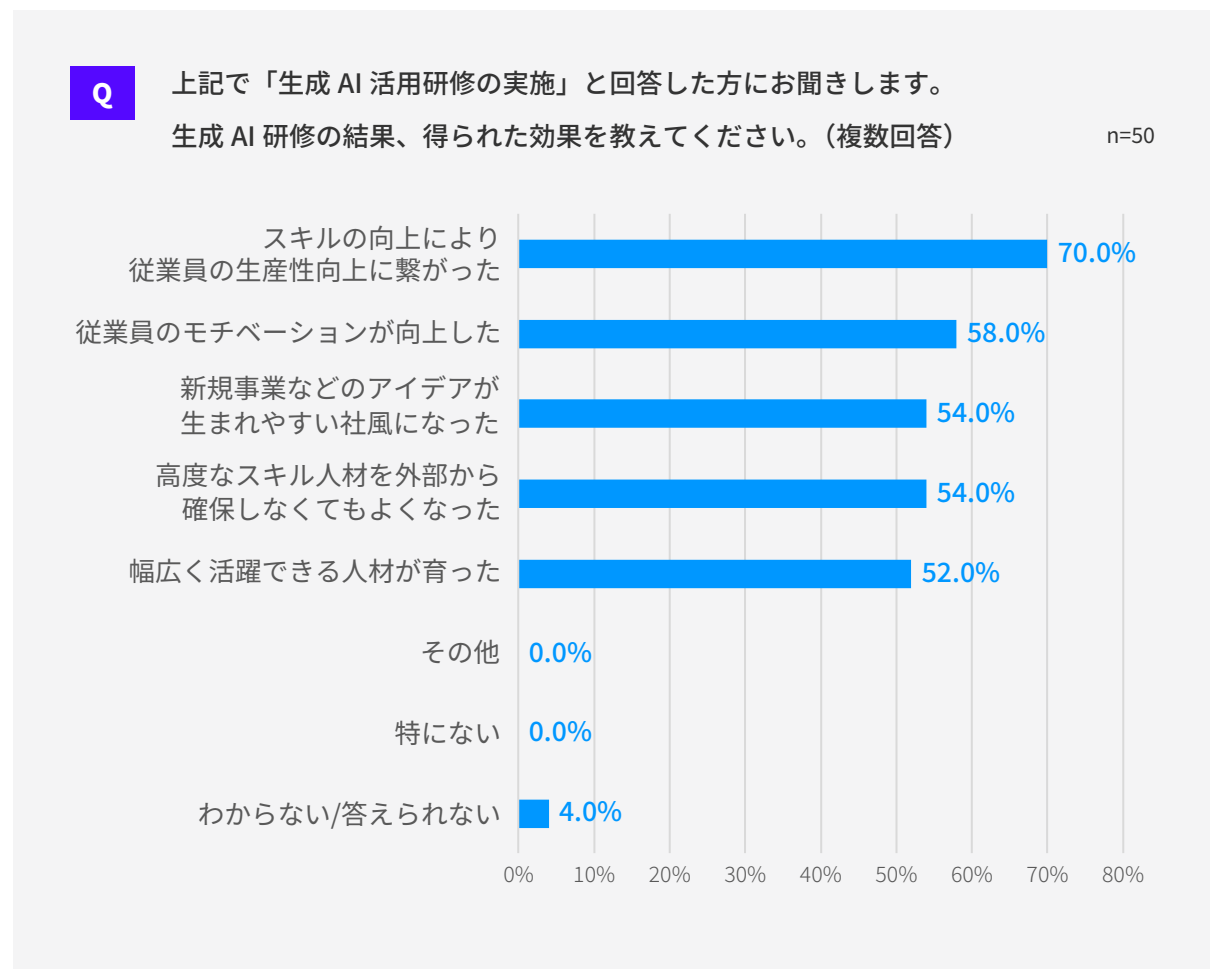
Q 上記で「生成 AI 活用研修の実施」以外を回答した方にお聞きします。
生成 AI のリスキリングを行いたいと思いますか。



Chapter 08

リスキリングの取り組み状況と AI（ChatGPT 等）の活用状況

また、生成 AI 研修で得られた効果としては「スキルの向上により従業員の生産性向上に繋がった」「従業員のモチベーションが向上した」「新規事業などのアイデアが生まれやすい社風になった」「高度なスキル人材を外部から確保しなくてもよくなった」といった声が聞かれています。



調査名称：DX 推進担当者の生成 AI リスキリング実態調査

調査方法：IDEATECH が提供するリサーチ PR 「リサビー®」の企画によるインターネット調査

調査期間：2024 年 5 月 13 日～同年 5 月 14 日

有効回答：大企業（従業員数 1,000 名以上）の DX 推進・経営企画・経営管理・人事で
リスキリング企画業務に携わっている方 104 名

Chapter 08

リスキリングの取り組み状況と AI（ChatGPT 等）の活用状況

今後、企業が求める人材要件には「エクセルが使用できる」と同等に「AI（ChatGPT など）が使用できる」という項目が当たり前に入ってくるでしょう。

生成 AI の活用、そして AI 人材の育成は、多くの企業にとって切迫した問題であり、企業内部の人事施策としてリスキリングの需要が高まっています。しかし、そもそも AI 人材を育成できる人材がいない企業が大半でしょう。

リスキリングのコンテンツを内製にこだわる必要はありません。AI 人材育成に限らず、リスキリングで身につけたいスキルはある程度の専門性をもったものです。そのため、外部の専門家を活用することで効率的なリスキリングが行えます。

生成 AI の活用を目的としたリスキリングは、企業にとって飛躍の種となるでしょう。『法人リスキリング』に関心を持たれた方はぜひ一度ご相談ください。

お問合せはこちら

お問い合わせ

<https://digirise.ai/contact>



『法人リスキリング』資料ダウンロード

<https://lp.digirise.ai/reskilling/download/>



株式会社デジライズ

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町 9-1 Daiwa 渋谷神泉ビル 1F

代表取締役 茶園 将裕

